

＊しばてん踊 高知県

しばてん踊は土佐の比較的新しい踊であるが、その素材を土佐の妖怪から採って、非常にユーモアがあり、明朗軽快で、特に老人と子供に適する民踊という点で優れており、踊る人数・場所・隊形などの応用範囲が広く、服装や持物の制約もないので、愛される踊の要素を多分に持っている。

天狗と河童の伝説は日本のどこにもあるが、土佐のは非常にユーモアがある。土佐の天狗はしばてんと言う。土佐弁の「しば」は「木の葉」の意で、しばてんは木葉天狗のこと。これが土佐では山の妖怪の代表で、からだには木の葉をつけて着物代りとし、犬ぐらいの大ききで、頭は青天、角力を取るのが大好き。夕方不意に出て来て、往来を通っている男に「おんちゃん（子供がおとなに「おじさん」と呼ぶ土佐弁）角力とろ」と言う。こんな子供がと思って相手になったが最後へトへトにやられてしまう。これに対して水の妖怪の代表である河童を土佐ではえんこうと言う。猿か犬ぐらいの大ききで、褐色の皮膚はぬらぬらしていて、両手には水かきがあり、左右の手が貫通して伸縮自在、人間の子供の肛門から肝を抜いて溺死させ、牛や馬の力にはかなわないし、鹿の角は大嫌い、頭上の血の水が溜れると精力を失ってヒイヒイ泣く。ところでこの二つの妖怪は実は一つのものであって、えんこうは秋が来ると山へ登ってしばてんとなり、春が来ると川へ戻ってえんこうになる。

戦後、高知新聞に連載された漫画家川島三郎氏のシバテンや高知放送の桜井健児氏のシバテン・クイズによって、角力を取ることと水中に潜るという両者の特徴を採って「土佐のしばてん」という水陸両棲の動物が作りだされた。桜井氏の放送で人気が高まった時、鳴子踊でも有名な武政英策氏（黒崎たけしはペンネーム）が「しばてん踊」を作詩作曲し、これに振付を依頼された花柳芳七松・花柳芳七一の姉妹が、漫画の本を百数十冊買って、子供が喜ぶと肩をすくめるのにヒントを得たり、獣だからナンパで踊ることにした。この踊が急速に広まって、今では一部の学校でも運動会などで踊るようになった。

夏も近づいてきました。そこで今日は日本民踊をと思い、兼ねてからの要望の「しばてん踊り」の歌詞なども含めて、のせます。

前ページのものは '83.5.7.の朝日新聞の記事です。上のものやら... は、「ふるりの民謡」日本フォークダンス連盟編 - 全音楽譜出版社のもの。

なお、しばてんの踊り方は Zurchan #3 を御覧下さい。

KVK

給排水設備機器総合メーカー

ナ、何だ？



北村ベルブ株式会社

しばてん踊

武政英策作詩・作曲

これがネー たまるかネ よんべの
 ゆめにネ トチャッチャ すきなあのこのてをひい
 て おんしゃなんならおらしばてんよ
 おんちゃん すもとろとろーちやチャッチャー はっけ
 よいよいはっけよいよいコリヤ はっけよいよい
 はっけよい よいソレ のこったのこった まだまだ のこった

しばてん踊

武政英策作詩

一、これがネ たまるかネ

昨夜の夢に ネット チャッチャ

好きなあの娘の手をひいて

おんしゃなんなら 俺ら しばてんよ

おんちゃん角力とろとろうちや

チャッチャ

はっけよい はっけよい コリヤ

はっけよい はっけよい

ソレのこった

まだ のこった

二、さんごネ 十五夜ネ

桂の涙の ネット チャッチャ

岩に竜馬の 立ち姿

おんしゃなんなら 俺ら しばてんよ

おんちゃん角力とろとろうちや

チャッチャ



「しばてん踊」

コロビア SAS-6130 ですが、既に廃盤だそうです。
 しか、復刻のシリーズが出てはいるはずとのこと... コロビアに
 でも問い合わせてみたらわかるでしょう。